

アスリート、指導者、陸上競技に関する皆様へ

本年 8 月に開催されるリオデジャネイロオリンピックに向け、アスリートの皆様は日々厳しいトレーニングに励まれていることと思います。また、指導者、関係者の皆様におかれましては、アスリートのサポートにご尽力いただき深く感謝いたします。

さて、スポーツ界は、ドーピング問題、賭博問題など、不本意な形で注目される機会が増えています。4年に1度のオリンピックイヤーに、このようなニュースが多く取り上げられることは、本当に残念でなりません。

オリンピックでのメダル獲得や、自己記録の更新を目指し、アスリートは競技力向上の為に多くの時間を費やしています。ただし、競技力は、アスリートの価値の一部であって、その全てではありません。味の素ナショナルトレーニングセンターに入ると、「人間力の向上なくして、競技力の向上なし」と掲げられています。その人間力を含めてアスリートの価値なのです。

このような時だからこそ、陸上競技だけでなくスポーツの価値を高めるために、襟を正し、我々が何をすべきかひとりひとりが真剣に考え、社会の一員として認められる行動を取りましょう。

アスリート、指導者、私たち関係者にしか出来ないスポーツを通じた社会的な役割があります。アスリートのパフォーマンス、行動、言葉には、国民の心を動かし、将来の日本を担う子どもたちに、挑戦する大切さを伝える大きな力を持っています。

スポーツ界で起きている問題と真摯に向き合い、陸上競技やスポーツの価値を高められるよう、共に努力していきましょう。

2016年4月13日

公益財団法人日本陸上競技連盟

会長 横川 浩

アスリートの皆様へ

2020年東京オリンピックを4年後に控えた今年、アスリートの価値、スポーツの価値を揺るがすような事態が度々起きております。同じアスリートとして、スポーツがこのような形で世間を賑わせていることに悲しみと憤りを感じております。

スポーツはあらゆるルール（制約）の上で成り立ちます。100m走で、合図が鳴る前にスタートをしたり、サッカーで手を使ってゴールを決めたりしたら、当然その競技は成立しません。ルールがあってこそそのスポーツであり、スポーツがあってこそそのアスリートがあることを私たちアスリートは忘れてはいけません。ルール違反は、私たち自身の存在を否定する行為であり、私たち自身の首を絞める行為です。

また、現代のスポーツは、人々に愛され、期待されることで成り立っています。人々がスポーツに、アスリートに、価値を見出すことで、スポーツが産業として成り立ち、私たちは競技をできているのです。我々がどんなに足が速くても、どんなにすごいプレーができたとしても、そこに価値を見出してくださる方々がいなければ現代のスポーツは成り立ちません。では、人々はスポーツの何に価値を見出すのでしょうか。すごいプレーを見て驚いたり、努力が実を結んだ瞬間を見て感動したり、応援しているチームや選手に夢を託すことでしょうか。夢を託すことのできるアスリートは、どのようなアスリートでしょうか。違法行為で競技力を高めるアスリートや、反社会的行動に手を染めるアスリートに人々は共感できるのでしょうか。日本陸上競技連盟アスリート委員会は、アスリートは競技力を高めるだけでなく、スポーツ界の模範であり、人々から愛される存在になるよう努力すべきであると考えています。

4年後には世界最大のスポーツの祭典が日本にやってきます。その中心となるのは間違いなく私たちアスリートです。私たちの競技だけでなく、私たちの振る舞いに全世界が注目しています。現在スポーツ界で起きている問題を機に、我々アスリートは自らを再定義し、我々がアスリートであることの意味と意義を見つめ直していきましょう。

2016年4月13日

公益財団法人日本陸上競技連盟

アスリート委員会

代表 高平 慎士